

PRESS RELEASE



名古屋証券取引所

NAGOYA
STOCK EXCHANGE

名古屋市中区栄 3-8-20 〒460-0008
Tel 052-262-3171 www.nse.or.jp

平成 30 年 9 月 26 日

各 位

9 月社長記者会見

1. 売買単位の 100 株への統一について
＜資料 1 参照＞
2. 第 9 回名証株式投資コンテストの開催について
＜資料 2 参照＞

以 上

売買単位の100株への統一について

2018年9月26日
全国証券取引所

全国証券取引所では、投資者の利便性向上のため、2007年11月に公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」に基づき、上場内国株券の売買単位を100株に統一するための取組みを進めてまいりました。

この度、本年10月1日をもちまして、全国の証券取引所において売買単位の統一が完了することをお知らせいたします。上場会社の皆様のご理解と多大なるご尽力に深謝いたしますとともに、市場関係者の皆様のご協力に御礼申し上げます。

当初は8種類存在した売買単位が1種類に統一されたことにより、より売買のしやすい市場が実現いたしました。全国証券取引所では、投資者および市場関係者の皆様にとって利便性の高い証券市場の構築に向けて、引き続き取組んでまいります。

以上

【お問合せ先】

株式会社東京証券取引所 上場部	tel. 03-3666-0141
株式会社名古屋証券取引所 自主規制グループ	tel. 052-262-3174
証券会員制法人福岡証券取引所 自主規制部	tel. 092-741-8231
証券会員制法人札幌証券取引所 自主規制部	tel. 011-241-6171

ご参考資料

◆ 売買単位集約に係る全国証券取引所の取組みについて

(年月)	(フェーズ)	(内容)
2007年11月		<p>「売買単位の集約に向けた行動計画」公表</p> <p>▶最終的に100株へ統一することを前提とし、当初8種類存在した売買単位について、当面の目標として100株と1000株の2種類への集約を行う方針を公表</p> <p>▶4つのフェーズ（第一段階、中断期間、第二段階、第三段階）を設け、100株統一を進める</p>
2008年4月～	第一段階	<p>早期適用期間</p> <p>▶新規上場会社や単元株式数の変更会社の売買単位は100株とする規則改正を実施</p>
2008年12月～	中断期間	<p>株券電子化制度開始（2009年1月）に伴う株式分割等の非推奨期間</p> <p>▶100株統一の取組みを中断</p>
2009年4月～	第二段階	<p>100株と1000株への移行期間</p> <p>▶当初2012年4月を仮の移行期限としていたが、東日本大震災（2011年3月）を受けて、2011年4月に移行期限の延期を決定</p> <p>▶震災の影響を確認後、2012年1月に移行期限を「2014年4月」と決定</p>
2014年4月～	第三段階	<p>100株への移行期間</p> <p>▶2014年7月に、市場変更の要件に売買単位が100株であることを求める規則改正を実施</p> <p>▶2015年12月に、100株への移行期限を「2018年10月1日」と決定</p>
2018年 10月1日		<p>売買単位の100株への統一完了</p>

第 9 回名証株式投資コンテスト概要

1. 目 的

名証に上場している「株式」と「ETF」を投資対象としたバーチャル取引形式のコンテストをネット上で実施する。

今回は、若年層の金融リテラシー向上及び金融経済教育の充実の一助となることに、より重点を置く目的で、参加対象を学生のみ限定する。

当コンテストは、学生にとっては、就職活動前に将来目指すべき企業を知るというメリットがあり、企業側にも学生に対して上場企業としての認知度向上が期待できるというメリットがある。

2. 実施要領

項目	内 容
実施期間	平成 30 年 10 月 22 日（月）～平成 30 年 12 月 10 日（月）
参加要件	インターネットに接続できメールアドレスを保持している学生(※)
参加方法	専用ページから ID・パスワードを登録。
競争方法	参加者は「個人戦」と「チーム戦」のどちらかを選択 「個人戦」は仮想元手資金 300 万円を幾らまで増やせたかを競う。 「チーム戦」は元手資金に対する収益率のチーム平均で成績を競う。 期間中、直前の終値で毎日売買可能 株式と ETF の全銘柄対象だが、単独上場銘柄を最低 1 回以上売買しなければならない。
結果発表	12 月中旬に成績発表、12 月下旬に表彰式を実施
賞 品	成績上位者にギフト券を進呈

※「学生」は、大学生等に限定せず、中・高校生も参加可能とします。

以 上

< 参考 1 > 過去の投資コンテスト参加状況

	個人戦	チーム戦	備考
第 1 回(平成 22 年)	1,051 人	—	
第 2 回(平成 23 年)	901 人	—	
第 3 回(平成 24 年)	2,096 人	—	名古屋学院大学が授業の一環として参加 (1,256 人)
第 4 回(平成 25 年)	1,051 人	202 人	12 大学、1 高等専門学校、53 チームが参加
第 5 回(平成 26 年)	1,210 人	555 人	35 大学、3 高等専門学校、149 チームが参加
第 6 回(平成 27 年)	1,187 人	635 人	36 大学、2 高等専門学校、164 チームが参加 (愛知・愛知学院・愛知工業・愛知淑徳・大阪経済・岐阜聖徳学園・九州・金城学院・熊本・慶応・神戸・滋賀・創価・大同・高崎商科・中央・中京・帝塚山・東京・東京理科・豊橋技術科学・長崎・名古屋・名古屋学院・名古屋経済・名古屋商科・名古屋市立・南山・一橋・福井工業・北海道・北海道情報・武蔵・明治・名城・酪農学園・近畿大学工業高専・名東高校)
第 7 回(平成 28 年)	1,186 人	444 人	30 大学、1 高等専門学校、132 チームが参加 (愛知・愛知学院・茨城・追手門学院・大阪経済・岐阜聖徳学園・京都産業・金城学院・慶応義塾・国際基督教・静岡県立・島根・専修・高崎商科・中部学院・中央・帝塚山・東京工科・同志社・名古屋・名古屋学院・名古屋市立・南山・日本・日本福祉・一橋・福島・北海道・明治・早稲田・四日市高校)
第 8 回(平成 29 年)	1,341 人	526 人	26 大学、1 高等専門学校、136 チームが参加 (愛知・愛知学院・愛知淑徳・追手門学院・関西学院・岐阜聖徳学園・京都産業・金城学院・近畿・専修・中央・帝塚山・東京富士・東京理科・東京工業・東海学園・同志社・豊橋技術科学・名古屋・名古屋学院・名古屋市立・南山・奈良高校・一橋・広島・武蔵・早稲田)

< 参考 2 > 学生チーム対抗戦順位

順位	2013 年 (第 4 回)	2014 年 (第 5 回)	2015 年 (第 6 回)	2016 年 (第 7 回)	2017 年 (第 8 回)
1	名古屋学院大学	岐阜大学	中央大学	追手門学院大学	岐阜聖徳学園大学
2	東京家政大学	名古屋学院大学	長崎大学	中央大学	南山大学
3	中京大学	名古屋大学	豊橋技術科学大学	金城学院大学	一橋大学
4	金城学院大学	豊橋技術科学大学	慶應義塾大学	帝塚山大学	一橋大学
5	名古屋大学	金城学院大学	愛知学院大学	岐阜聖徳学園大学	金城学院大学